

建設業を身近に感じて

建設業者の若手が内牧小でボランティア

阿蘇地区建設業青年部（森本剛志会長）と熊本県建設業協会阿蘇支部（森光也支部長）の部員10名が、6月1日に内牧小学校で駐車場整備と児童への建設機械試乗体験を行いました。

地域貢献と建設業の担い手育成を目的として同団体がボランティアで実施した取り組みで、阿蘇西小学校校舎を解体した際に出た廃材の砕石30立方メートルを運搬して小学校の職員駐車場に布設しました。また、建設機械に親しみを感じてもらったため、一年生の児童がユニボやローラーに同乗し、作業員のサポートを受けながら作業を体験しました。



わだい

建設機械の迫力にびっくり



News

国道212号沿いの歩道を清掃した水道事業者

水道週間に環境美化活動

市内の水道事業者が清掃ボランティア

阿蘇の美しい農村景観の維持を目的に、阿蘇市管工事協同組合（大友一雄組合長）の11社20名が6月5日に国道212号沿線の清掃活動を行いました。

同組合では、水道について市民の理解と関心を高め、公衆衛生の向上と生活環境の改善を図る「水道週間（6月1日～8日）」に合わせて毎年ボランティア活動を実施しています。

ことは、降りしきる雨の中、内牧温泉入口から国道57号の交差点まで約6キロにわたり、道路沿線に捨てられたゴミ拾いに取り組みました。

おいしいイチゴで農業体験

はな阿蘇美で園児らがイチゴ狩り

シーズン営業終了前のはな阿蘇美観光いちご園（村上進社長）で、6月5日に内牧保育園の年長組26名と阿蘇中央幼稚園の年中組37名がイチゴ狩りを体験しました。

「店頭に並んだ商品ではなく実際に実った農産物に触れてもらいたい」と、はな阿蘇美が地元の園児を招いた食育の取り組みで、いちご園の職員からいちごの摘み方を学ばず、園児たちは友人らと大きさを競いながら赤く実ったイチゴを収穫していききました。自ら摘み取ることで、食べる喜びと食べ物へのありがたさを学びました。



わだい

赤くなったイチゴを摘み取った内牧保育園の園児



わだい

オオキンケイギクは
根から抜き取るのが効果的

花びらがギザギザ
中心も黄色が特徴

黄色い花には注意して！

特定外来生物オオキンケイギク駆除活動

阿蘇の希少な植物や豊かな生態系を守るため、6月7日に環境省や自然公園財団の職員ら10名が市内をパトロールし、約40カ所でオオキンケイギクの駆除活動を行いました。

オオキンケイギクは北米原産の多年草で繁殖力が強く、在来の野草が減少することから特定外来生物に指定され栽培などが禁止されています。環境省の職員は、「庭に植えている場合や墓地に多くみられる。個人の土地の場合は勝手に抜けないので、気づいたら駆除してほしい」と注意を呼びかけました。

子どもにボランティア体験を

宇土区の子ども会が清掃活動

わだい



清掃活動を通して地域の絆が深まった

宇土区の黒川河川敷周辺で6月10日に清掃活動が行われ、地域の子ども会20名がボランティアとして参加しました。

内牧小学校区では、「地域体験活動」や「地域貢献活動」として、地域と子どもとの交流の場をつくる取り組みを行っています。

宇土区では、子どもたちがボランティアに参加する機会がないことに注目し、住民と子ども会が協力して行う清掃活動を実施。子どもたちは地域の清掃作業に参加することで社会貢献と地域住民との絆を深める貴重な体験となりました。

ちち 父の日に牛乳を贈ろう

大阿蘇酪農組合女性部が牛乳の日キャンペーン

大阿蘇酪農組合女性部(森本富美部長)が6月11日に市役所を訪れ、父の日に合わせ市民のお父さんの代表として佐藤市長と和田副市長に牛乳を贈呈しました。

牛乳販売促進のため毎年行っている取り組みで、ことしは市内5カ所の仮設住宅にも新鮮な牛乳が贈られました。

森本部長は「牛乳は認知症のリスクが減り、筋肉が衰えないなどのメリットがある。ミネラルも豊富で熱中症予防にもなる。1日1杯飲んでほしい」とお仕事をがんばるお父さんたちにエールを送りました。



わだい

牛乳を贈り健康を祈願